



チーム海南×国立大合格者対談



進学先

和歌山大学
教育学部九鬼 暖さん
海南高校
ソフトテニス部
キャプテン

進学先

静岡大学
教育学部藤川亮太さん
海南高校
バスケットボール部
副キャプテン

3年間を振り返って。まずは高1の頃からお話を聞かせてください。

九 鬼：高1の頃から、当たり前やけど、塾の授業は休まず受けました。テスト期間に入ったら、部活も休みになるので、毎日自習室に来てテスト勉強を。家では全然勉強できなかったの。普段は学校と塾の宿題、小テストの勉強は高1の頃から一応ちゃんとやってました。

藤 川：ACには来ていなかったし、部活ばかり。部活して、遊んで…。兄から「評定は取っておいた方がいい」と言われてはいたけど、高1の頃はその意味をわからないままダラダラ過ごしてたかも。小テストの勉強は一応やっていました。再テストや再提出になるのがだるかったし、その方が絶対めんどくさいし。英単語は夜にやると頭に残りやすいって聞いてたので、前日の夜にやって、授業の直前に確認。

青 石：テスト勉強はいつからスタート？

藤 川：テスト発表されてから3日間ゆっくりした後、に始めました。追い込みで！だからほぼ一夜漬け？(笑)

九 鬼：僕はテストの2週間前ぐらいから。千映さんに数学の『4プロセス/数研出版』もうそろそろ始めてるやんな？』と言われるタイミングから少しずつ(笑)テスト発表する前のチャレ勉から本格的にスタート、という感じでした。その頃、亮太はまだ始めてないけどな？(笑)

藤 川：学校の授業を毎回真剣に受けてたから！授業で見た問題はパパッと解けたし！

青 石：高1秋の文理選択はどうだった？

藤 川：迷わず文系！具体的な志望校はまだ決まっていなかったけど、行きたい学部が経済、経営、教育に絞られてきていたの、そこから逆算して文系を選択しました。学部については学校で大学について調べる機会があって。一般企業に就職するなら経済学部系統、“学校の先生”にも興味があったので教育学部系統。それと同じタイミングでぼんやりと考えていた和太について調べたら、和太には経済学部も教育学部もあったので、とりあえず和太を目指そうかな、と。

九 鬼：同じく、迷うことなく文系。僕は社会の先生になりたい、という目標があったので。

高2進級後について。藤川君が入会してくれました。

藤 川：ACデビューしました。高1の評定が3.8、最低でも4は取っておくように言われていたの、これは塾に行かないと、と思って。中学生の頃GESに通っていたし、仲の良い友達もACに通っていたので、ACに決めました。塾に始めた分、高2はちょっと勉強時間が増えました。久保田先生は授業中、大学の話もしてくれるので、大学受験の知識も少しずつ入ってきて、色々意識し始めるきっかけをいっぱいもらえたかなって思います。

青 石：高2の夏から部活も新体制になり。九鬼くんはキャプテンを任されたね。どう両立してた？

九 鬼：しんどかった…。ほんまにしんどかった。ソフトテニス部はみんなキャラが濃かったから、チームとしてまとめないと、と思うとほんとにしんどかったです。勉強面で僕の場合は、高2になったから何かを変えた、ということは

インタビュアー

青石千映
(AC 海南駅前校カウンセリングスタッフ)

なかった。高1から続けていた、塾は週3で来て、テスト期間中は毎日自習室、というスタイルのままでした。

青石：そろそろ受験生って思うタイミングっていつ頃だった？

九鬼：僕、実は最後までそういう「受験生」になるみたいな自覚が全然なかったです。塾に来て、千映さんと話をして「そろそろ勉強しよか」って言われて始める、というのが1年生の頃から染みついてて(笑)それが週3日から毎日になっただけで、ずっと言われたこと・決めたことをやってた、って感じでした。

藤川：僕は2年の3学期ぐらいかな。みんなで「英単語ターゲット1900／旺文社」勝負しようって盛り上がった時期があって。あとは、学校で海南高校から神戸大学進学した人の講座を受けたことが印象に残っていて。講座が終わった後、受験のことを意識し始めた何人かで、その人に勉強方法とかを聞きに行ったんです。その人は今の時期には勉強をし始めていて、休みの日は1日10時間って聞いて、すごいな！と。さすがに10時間は無理やけど、ちょっとずつ真似してみようかな、って意識はできたかな。



高3に進級。いよいよ受験学年になりました。

藤川：もちろん部活一色で。あ！6月の英検2級は受けようと決めました。英検は2級まで取っておくようにって塾でも学校でも聞いていたので。一発で合格しましたよ！あとは、「公募制推薦」っていうのがあるぞ、って先輩から聞いたり、塾でも学校でも、やっぱり受験の話が多くなってきた。

青石：部活引退後、EQ(英語基礎力養成講座)も始まり…。

2人：わー！始まったー！(笑)

青石：EQは二人とも頑張ったよね。検定も299/300、満点には届かず、やったけど頑張ってたね。夏休みに入って。

2人：海南勉強会の嵐！(笑)

青石：学校の補習がない土曜日とお盆休みの期間は朝から夜まで…毎日やったね。(笑)

九鬼：夏休みが1番勉強したな。

藤川：俺も夏休みほんまに頑張った！！勉強会とかチャレ勉は、自分の性格に合ってたと思う。自分1人でやるのはよくなかった。ここ来て周りもみんな勉強している状況を作ってもらえたのはよかった。

青石：暖は評定も高かったから指定校推薦に少し揺らいだ時期があったね。

九鬼：一瞬揺らぎましたね。何が何でも小学校の先生に、とまでは思っていなかったのですが、本当に和大的「きのくに教員希望枠(和歌山県内小学校での教員就職を希望していることが出願条件の一つ)」で受験してもいいのか、と思って。私立の他の学部に進んで教員免許を取ってもいいのか、と。千映さんが一緒に調べたり電話してくれたりしてなかったらもっと深刻に悩んだ。でも最終的には、やっぱり一緒に国公立大を目指してる友達に負けたくなかったし、最後まで一緒に頑張りたい、と思ったので、私立の指定校推薦は希望しないと決心しました。

青石：公募推薦で受験する大学はどうやって決めた？

九鬼：僕は英検2級を使えて社会学部のある龍谷大学を。

藤川：僕も英検を使える近大と、滑り止めにしたい京産大を。公募の前は、全日程の過去問を2年分解いて。近大の英語やバイ！と思いました。

九鬼：僕は龍谷大の対策はほとんどできてなかったです、前日が和大的推薦入試日だったので。それまでは推薦で必要なプレゼンの練習をずっとしていて。塾の教室で友達にも見てもらい、練習しまくってダメ出しもしてもらいました。

青石：練習積んだね！どんどん上達していったもんね。公募の発表は亮太の方が早かったかな。塾で発表を見て…

藤川：近大受かってる！受かってもた！みたいな(笑)それでまた自信もついて、一気にモチベーションが上がりました。このまま頑張ったら、もっと上を目指せるって思ったら、やらな！って思いました。国公立の一般入試でやってやったぞ！って胸張って言いたかったから、安心して失速、ということはなかったです。千映さんにもめっちゃ言われたし。(笑)

九鬼：僕は和大的に合格したんで、いつ勉強を止めてもよかったんですけど、なぜか毎日まだ塾に来てましたね(笑)共テは出願したから、どうせならいい点取りたいと思って。

藤川：暖がサボらず来てくれてたことはほんまにありがたかった。合格した暖がやってるのに、まだ決まってない俺らは手止めれやんし。(笑)

青石：亮太は最後の追い上げ、すごかったね。共テ前日には塾に来てみんなで闘志を燃やして。共テは緊張した？

藤川：もうべらぼうに緊張した！前日の夜が1番やばかったな。ちょっとしたことで、むちゃくちゃ腹立ったり。本番特有の感じというか。当日は俺の勝負の国語で、左後ろのヤツがいきかいて寝やがって…。

九鬼：僕はお腹が痛くならないように食べるものや量を調節して。

藤川：自己採点の後、出願先を静岡大と滋賀大とで悩んで。ここが分岐点でしたね。

青石：亮太は強気やったね。

藤川：滋賀やったら、ちょっと余裕あるしって逆に失速してたかも。静岡の過去問を解いても、

ずっとボーダーまで届いてなかったから、しんどいしんどいって思いながらやってました。で、しんどいって思ってる途中で、倍率が出て。1.4倍？！いけるんじゃない？！これで落ちるのは嫌やなってなおさら思えてきて。近大公募の倍率は10倍ぐらiyったし、じゃあいけるなって。謎の自信がありましたね。



3年間を振り返って、一番しんどかったこと、嬉しかったこと。

九鬼：僕は勉強より部活の方がしんどかった。勉強は問題が解けなくても答えが絶対ある。でも部活はそうじゃなくて、テニスは高校から始めたし、みんなの方がテニスに関する知識はあるから、キャプテンが練習メニューを決めるんやけど、なんかもっといい練習があるんじゃないかとかずっと思ってた。高2の冬ぐらいが1番しんどかった。

藤川：僕は仲のいい友達の進学先が推薦とかで決まっていた時と、共テが終わって2次試験に切り替わった時。共テまでの勉強が破壊されたような感覚で。記述問題っていう壁がでかすぎて、どう戦うかを調べたり聞いたりしていた時がしんどかったかなって感じです。

青石：嬉しかったことは？

藤川：数学がずっと苦手。でも共テ本番で、この問題やったら俺も解けるぞって思って解いた部分が合っていて。意外と正答率が低い問題やったみたいで。その時は気持ちよかったです。

九鬼：僕は模試で和大的A判定になった時と校内順位で2番やった時。自分より絶対上やと思ってた子に、勝てたんや！って思って。

藤川：わかる！模試の順位や点数も頑張るモチベーションやったよな。毎回、模試の自己採点の後すぐに、千映さんと教科ごとに次の模試までの目標を立てたじゃないですか。それがそのまま点数に反映されたな、って思うのでよかったです。漠然と、600点を超えることが目標ってだけじゃなくて、そこまで何をすればいいかを一緒に決めていける、みたいな感じやったんで。

ACクラスライブについて教えてください。

青石：まずは、英語の久保田先生(3年間担当)の授業についてから。

九鬼：授業で習った知識を使って先生が出した問題を隣の子と話し合ってた時間があった。それが楽しかったので授業がある日は嬉しかったです。辞書をひきながらあれこれ言い

合って答えを出す時間が。これこの前、久保田先生言ってたやつや！って気付けることがどんどん増えていって。授業の中で大学の話も聞けたし。

藤 川：楽しかったな。話し合う中で、考え方が同じだったり、大事なポイントに気付けたり。これってあの構文じゃね？って。成長を感じましたね。毎回の単語テストやチェックテストもありがたかったです。公募前は私大の過去問を使って『今日は近大や！いけー！』って。何回もトレーニングさせられたな。(笑)二次対策でも久保田先生の授業を受けて。あれで初めて記述の解答の作り方を習いました。ボコボコに殴られた感じやった！

青 石：数学の山本先生は？

九 鬼：Ryu先生の授業は丁寧で深いところまで教えてくれて。だから僕は、学校の授業の後にRyu先生の授業を受けたかった。学校の授業を一通り聞いて、さらにそれをRyu先生に細かいところまで深めてもらう方が僕はよかったかな。『4プロまだやってないんか？』ってチェック入れられたり。常にいじられてましたね(笑)

藤 川：僕はRyu先生の授業は秋特訓で受けて。あの授業は効いたなー！部分分数分解のテクニックとか、俺は聞いたことがなかったので衝撃でした。

代ゼミサテライン講座はどうでしたか？

藤 川：僕は船口先生の現代文の授業(共通テスト国語)を受けるようになってから国語の意識がガラッと変わって。ほんまに革命起きた。国語って絶対伸びやんと思ってて。本は読んでいたから読むことはできる、でも選択肢がわからない、という状態だったけど、高得点を取れるようになりました。理解度にも繋がるし、共通テストの点数の取り方がわかりました。

九 鬼：共通テスト地理の宮路先生がオススメです。先生が結構オタク気質で。旅行や野球、先生が好きな分野の話など実生活とつなげて、教科書に書いてないような知識を教えてくださいました。板書だけでなく、色々なICT機器を使って進めてくれるのですごくわかりやすかったです。

藤 川：サテラインで好きな先生を作るといいよな。望月先生の古文(フレッシュアップ古文／夏期講習会講座)を受けたときも、『光くんかわいい！』とか言いながら受けると授業の内容に興味を持てるし、すんなり頭に入ってきて。古文の勉強をしても『これ光くん教えてくれたやつ！』『これは光くんが覚えろって言ってた！』って。先生が好き、先生に興味があるからこそ、力を付けられたと思います。



受験を通して、いまどんなことを思ってる？

九 鬼：積み重ねが大事。1年の頃から単語だけはやろうと思って覚えてたから、共通テストでうまくいったし。習慣付けるといとか…。やらない日があれば、嫌、気持ち悪い！というぐらいまで。(笑)小テストも絶対合格しようって最初から思ってたし、1回合格したら次も受かりたいって思う。そのうまくいった経験を積み重ねることが大事だと思います。

藤 川：俺は、その積み重ねがあつたらよかったなと。習慣づけられていたら、もっと楽になったかな、って。例えば、単語でも、もっと頭に入れられていたら、ここまで英語長文に悩まされることはなかったかなって。

青 石：1・2年生へのアドバイスと、受験生になる3年生へのアドバイスをお願いします。

九 鬼：1・2年生は、バランスよく頑張ったら僕はいいと思ってて。僕は文化祭の準備とか、全然できなくて。それは後悔してる。“高校生”できてたんかなって。ただ部活を、テニスをやってる人だったかな、と。もうちょっと色々やったとしても、うまく時間を使えば絶対両立できるんで。ダラダラしてる時間が1番もったいない。メリハリがあつた方がいいかなと思います。僕は全部中途半端になったな、と思うこともあるから、色々なことを楽しんで頑張ってほしい。3年生は、最初から『10時間やる！』とか、続かんし、まずは『毎日絶対机に向かう』とか『絶対塾へ来る』とか、そういうのを積み重ねて段々厳しくしていくのが良いと思います。

藤 川：僕は、1・2年生は、目の前にあることをとにかくやる、です。テスト期間はテスト勉強、部活の時間は部活、文化祭の前はもう散々文化祭のこと考えたらいい。塾に来た時はちゃんと授業を受ける。知らん間に吸収できてたことで、後からこれ見たことある！って思い出せるから。『今日塾行くのだからい…』って思う時もあるけど(笑)、でもちゃんと来る。『高校生活を楽しくする！』ということを考えながら過ごすのがいいなと思います。3年生は、俺はあんまり志望大学を決めなかったから、次の模試で何点取るとかちょっと目標をこなしていくのが大事やったなって思います。段々指定校や公募推薦で周りが抜けていく中で、自分たちだけが頑張らなあかんってなる時が必ず来る。そこで踏ん張れたら、たとえ1番上の目標には届かなくても、自分にとっていい大学に行けるんじゃないかなって思います。そう思いながらずっとやってた。どんどんいなくなってきたら勝手に焦っていくから！自然と追い込まれて頑張ってほしいですね。そこで逃げたらあかん。

九 鬼：そうやな。もう一生懸命やるしかない。

ふたりにとって、ACはどんな場所でしたか？

九 鬼：“塾”やけど、気軽に来れるというか。勉強は嫌やけど、塾に来るといことは楽しかったです。1、2年の時も。塾だから勉強のことはもちろんなんやけど…勉強以外の話もしてくれた。部活で悩んでる時は相談に乗ってもらったし。受験は思ってた以上にあっという間に過ぎていった。でもそれは一緒にACで受験勉強を頑張る友達が多かったからだだと思います。『しんどい』と思うことはあっても、毎日塾に来れば誰かが頑張っているのを見てモチベーションを上げて、みんなで一緒に帰る。つらい経験ではなく、どちらかと言うと『高校時代の思い出』ですね。

藤 川：確かに。ここに来て勉強のことばかりで頭がいっぱいになるってわけじゃなかったな。僕は2年の時は『来なければならぬ場所』やったけど、3年になってからは楽しかったです。夏休みぐらいから自習にも来たし。勉強しかすることがなかったし、ここに来たら誰かはちゃんと勉強してるので。で、指定校や公募が終わって、一般入試まで一緒に頑張ろうって言ってた子たちも、私立組は国公立組より若干早く終わる。でもそれでも塾では自分1人じゃないから。やっぱり塾と一緒に頑張る友達がいたっていうのは大きかったですね。

編集後記 ～インタビューを終えて～



九鬼君は小テストや定期テストをペースメーカーにして高1から地道に積み重ね、高3になってもいい意味の“マイペース”を継続、秋以降の模試でもどんどん点数が上がっていくのを見るのが楽しみでした！メンタル面で少し心配していましたが、誰よりも塾に来ていた！ということも自信にもつながりましたね！

藤川君は、部活引退後からの怒涛の追い上げ、特に文化祭/体育祭が終わってからの快進撃…すさまじかったです！模試と模試の間に自分で決めた課題を確実に仕上げる、焦りや不安もうまくコントロールし、何に対しても強気で攻めましたね！（共テ終わりに受験する大学を決めるとき、私が守りに入ってごめんなさい！笑）

部活との関わり方、大学選び、勉強スタイル、受験に対する考え方…など、大学合格までの道のりは異なるものですが、2人とも徹底して実践していたのは『ヤル時はヤル！』でした。“ゾーン”に入ったらいま取り組んでいることに集中する、その力を存分に発揮した高校生活でしたね！チーム海南のメンバーがみんなで頑張れたのは2人の力が大きかったと私は思っています。「暖が頑張ってるから」「亮太が集中してるから」、自分たちも頑張ろうと、みんなが思える環境を作ってくれました。今日はちょっと休みたいな、雨降ってるし行くのダルイな…等と思う日もあったと思いますが、逃げることなく毎日塾に来てくれてありがとう！これからの大学生活が充実したものであるよう祈っています！

AC海南駅前校カウンセリングスタッフ 青石千映